

八月三十日。右衛門尉宗貫、領家の命により、珠洲郡本光寺に若山莊西海浦恒利名の下地を寄進す。

【本光寺文書】 珠洲郡

八二八

袖判

寄進

馬繫本光寺

能登國若山莊西海浦内恒利名半分本田事

合肆段五半者

右下地、眼、永代年貢諸公事等、可有知行之由所候也。

仍執達如件。

永享四年八月卅日

右衛門尉宗貫

(西海浦とあるは、貞和五年四月十一日の條に見えたる馬繫浦附近の總稱なるべし。また右衛門尉宗貫は、永享五年二月九日以下に見えたる右衛門少尉宗有と同人なるが如く思はる。)

十月十一日。幕府、加賀守護富樫持春をして、白山若衆徒舊領の年貢を納めて注進せしむ。

【御前落居奉書】

八二九

白山若衆徒跡分^{去年}年貢事、長吏相共納置之可被注進之由候也。仍執達如件。

永享四月十一日

爲種

富樫^{持春}介殿

基貞

十二月二日。幕府、高辻長郷に、山城北野社領江沼郡富墓莊預所職を安堵せしむ。

【御前落居記録】

八三〇

一、文章博士長郷朝臣申北野宮寺領加賀國富墓莊號梁山預所職事

彼庄務、以建保六年官符宣募由緒可預上裁之旨長郷申之。爰件官符宣、校正之案文也。非無御疑貽哉。而就被尋下、如評定衆等注申者、校正之物准據正文之段、古

今傍例云々。將又被召出長案之面仁加筆引墨事、是亦鑿詞嗜道故也。尤爲規模云々。就中或神領之預所雖爲凡人、可被便補否。或庶子斷絶之時、爲嫡流競望有其謂否。云彼云是及淵底御糾明者也。旁以長郷之訴不爲非據之趣、評定衆等申上訖。然者神用不可致無沙汰之旨、被召置請文、可被成下御判之由被仰出矣。

永享四年十二月二日

美作守秀藤

永享五年

癸丑

紀元二〇九三

二月九日。右衛門少尉宗有、珠洲郡本光寺に、同寺領馬繫浦恒利名の山崩を認め免狀を與ふ。

【本光寺文書】 珠洲郡

八三一

馬繫浦恒利名散田内山崩事

合九者 在所金山

右被下地之内、永享四年之年、依山崩成數候之間、免許之處實也。爲後日之免狀如件。

永享五年二月九日

宗有 在判

永享五年・六年

(宗有の右衛門少尉なることは、永享七年七月十三日の條に見ゆ。)

永享六年

甲寅

紀元二〇九四

【天龍寺文書】 山城

八三二

臨川寺領加賀國大野庄諸公事、臨時課役・段錢・守護役以下事、被免許之段度々被成御判并下知之處、近年或號檢斷、或稱借物致其煩云々。堅所停止也。向後彌爲守護使不入之地、寺家可全領知之狀如件。

永享六年四月十六日

左大臣源朝臣 在判

【臨川寺文書】 山城

八三三

臨川寺領加賀國大野庄段錢・臨時課役以下諸公事、爲免

三六三